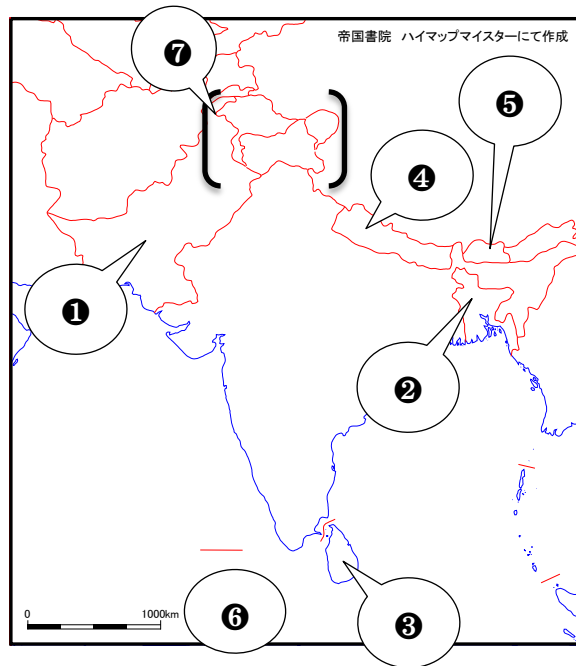


地誌 第11回「南アジア地誌③ - インド以外の南アジア諸国 - 」

○今回のポイント



	国名	都
①		イスラマバード
②		ダッカ
③		スリジャヤワルダナプラコッテ
④		カトマンズ
⑤		ティンプウ
⑥		マレ
⑦		

①パキスタン=イスラーム共和国 都：イスラマバード 人口約 1.7 億人(2010 年) イスラーム教

- 1947 年独立。インダス文明。インドと同じアーリア系だが、宗教・言語の違いから分離独立。
- イスラーム教国、国土の大部分が[①]
- 東部にインダス川。流域の[②]は英領植民地時代から灌漑→小麦や綿花の栽培地域
- 世界有数の[③]生産国。綿織物や衣類は重要な輸出品
- 公用語はウルドゥー語、宗教はイスラーム教。

②バングラデシュ 都：ダッカ 人口約 1.5 億人 (2010 年) イスラーム教

- 1947 年に英領植民地から独立した際は[④]の一部だったが、1971 年に分離独立。  
※インドを中央に挟んだ飛び地であり、かつ西パキスタン優遇政策がとられたため。
- イスラーム教国、[⑤]は世界有数。公用語はベンガル語。
- 国土の大部分がガンジス川とブラマプトラ川のデルタ。[⑥]低平なため、雨季の洪水やサイクロンによる高潮などの被害を受けやすい。地球温暖化による国土の水没も懸念。
- 国土面積の 6 割が農地でコメやジャートの栽培が盛んだが、洪水やサイクロンなどの自然災害により [⑦]。

③スリランカ 都：スリジャヤワルダナプラコッテ (要塞されし勝利の町) 仏教とヒンドゥー教の対立

- 旧英領、1948 年に[⑧]として独立、1972 年にスリランカと改名
- 約 7 割が仏教を信仰する[⑨]。約 2 割が英領植民地時代に労働力としてインドから連れてこられたヒンドゥー教を信仰する[⑩]。かつてシンハラ人優遇政策がとられたので民族対立が激化。紛争が起こる。
- 世界有数の茶の生産国([⑪]紅茶は有名)。英領植民地時代からプランテーション。

④ネパール 都；カトマンズ 人口約 2500 万 ネパール語 ヒンドゥー教

- 3000m の盆地の国。国王が大地主、農民はほとんど小作農の【12】。
- 首都のカトマンズはヒマラヤ登山基地。【13】の入山料が収入源。
- 国境は【14】(8 割)。他チベット仏教(1 割)など。

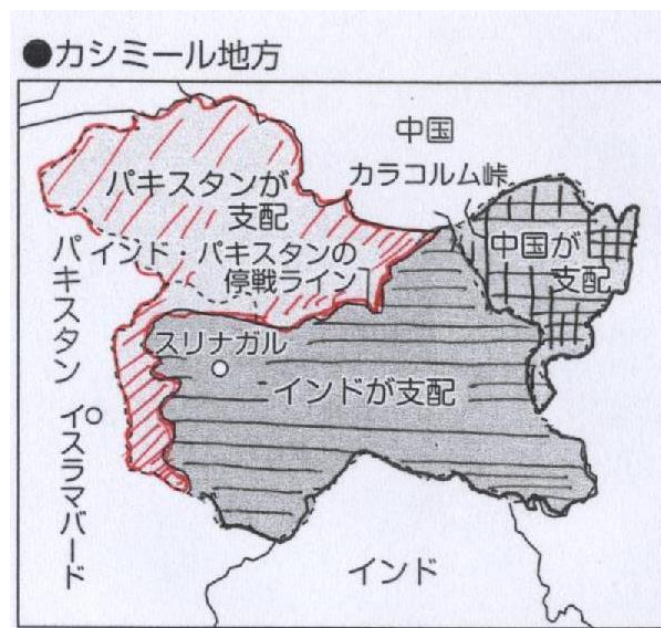
⑤ブータン 都：【15】 仏教

- 旧隣国キッシムが 1975 年にインドに併合されたのを契機にインド保護領から完全独立。
- 住民はチベット人が多く、チベット仏教 75%。僧侶も多い。

⑥モルディブ共和国 首都：マレ 旧英保護領(1965 年独立) 人口約 27 万 イスラーム教

- 大小 1196 の【16】の島。最高 3.5m。海面が 65 cm 上昇するだけで国土の半分は水没し、湿地化して人は住めなくなる。漁業と海運が主産業。
- インド系、マレー系、アラビア系の住民で構成され、宗教はイスラム教。
- ツバルと共に【17】の危機感を持つ。

⑦カシミール地方(国境紛争地域)



カシミール問題…カシミール地方をめぐる【18】と【19】の領有問題

WWII 後、英領植民地から南アジアが独立を果たす



ヒンドゥー教徒とイスラーム教徒が対立。インドとパキスタンに分離独立することに。



当時のインドは分権社会。帰属の決定権は地方領主(藩王)にあった。



カシミール地方の藩王はヒンドゥー教徒であったが、住民の多くはイスラーム教徒だった。



帰属をめぐり対立。現在も領有問題が続いている。